

別記様式第1号

「現場の創意工夫プロジェクト」計画書

《プロジェクト名 遊休農地集約による地域農業活性化プロジェクト》

市町村	大蔵村	対象地域	大蔵村	分野	土地利用型作物、園芸
実施主体名	斉藤 辰栄	代表者氏名	同左	住所又は主たる事務所の所在地・連絡先	大蔵村
実施主体構成	1名				

プロジェクト 目標（5年後）	産出額（増加額）	16,000千円（6,000千円）				
	独自の目標項目	水稲410a→600a トマト13a→15a アスパラ0a→50a そば20a→80a 作業受託50a→150a (水稲・アスパラ・そばの圃場は、新規に借り入れを行う予定)				
各年次目標	現 状	1年目（H22）	2年目（H23）	3年目（H24）	4年目（H25）	最終年（H26）
	産出額	10,000千円	11,000千円	13,000千円	14,500千円	16,000千円
	独自の目標 項目	水稲 410a トマト 13a アスパラ 0a そば 20a 作業受託 50a	440a 13a 10a 20a 50a	510a 13a 30a 20a 80a	600a 13a 40a 80a 100a	600a 15a 50a 80a 150a
プロジェクト 概要	◎実施方針	拡大が懸念される地域内の遊休農地を集約することにより、地域農業の活性化を目指す。				
	○産出額の増大	機械整備を行うことで、農地の借り入れによる新規作物の導入などにより産出額の拡大を図る。 (水稲 2,100千円・トマト 600千円・アスパラ 3,200千円・そば 100千円)				
	○雇用の創出	30人/日				
	○創意工夫	地域の状況は、高齢化や離農により農家数が近年で約10件程減少し、現在38戸である。農業経営者の38戸の平均年齢は61歳、内65歳以上は26%以上であり、10年後には35%を超える。又農地の10%にあたる約8haが遊休農地である。この状況から抜け出し、地域の農業を活性化させるべく、遊休農地の耕作の受皿として、先頭に立って農地を借り入れ、園芸作物栽培を行うと共に、高齢化しつつある農家の農作業等の受委託を推進し地域の農地を守る。				
	○実現性	自らの後継者に施設園芸部門を継承し、自らは作業受託を中心とした土地利用型農業を行うことができる。				
	○地域への波及効果	遊休農地の活用により、地域農業の活性化を図る。また、地域の他の認定農業者5人と協力し、農業後継者16人にこれまで養ったトマト栽培技術を始めた指導育成等を行う。				
	○その他	冬期の園芸作物としてのアスパラガス栽培は大蔵村で初の試みとなり、周年農業の作物としてのモデルを示す。				

	実施年度（平成22年度）	実施年度（平成 年度）
事業内容	農業機械の整備（トラクター1台 30PS級）	